



アクサ生命保険株式会社

《日本株インデックスTOPIXファンド》

運用実績 (2025年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) ^(注1)	△2.17	41.54	99.05	280.31
	(注) 運用開始日は2002年11月1日。				
運用方針	国内上場株式に投資することにより、東証株価指数に連動した投資成果をあげることを目標とします。				
運用経過および 今後の運用方針	資金の流出入にに合わせて、「インデックスファンドTSP」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「インデックスファンドTSP」への高位の投資比率を維持します。				

《グローバルグロースファンド》

運用実績 (2025年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) ^(注1)	2.61	38.87	143.22	510.24
	(注) 運用開始日は2003年7月1日。				
運用方針	日本を含む世界主要先進国の株式の中から特に世界的に競争力に優れた成長企業の株式に投資し、外貨建ベースの優れた収益の獲得を目指す投資信託に主に投資することによって、中長期的な観点から、日本を含む世界主要先進国の株式市場全体（MSCIワールド指数）の動きを上回る投資成果を目指します。				
運用経過および 今後の運用方針	資金の流出入にに合わせて、「Gグロース」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「Gグロース」への高位の投資比率を維持します。				

《グローバルソブリン債券ファンド》

運用実績 (2025年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) ^(注1)	△1.41	8.19	12.00	46.88
	(注) 運用開始日は2003年7月1日。				
運用方針	世界先進国の信用度の高いソブリン債を中心に分散投資する投資信託に主に投資することによって、安定した収益の確保と長期的な成長を目指します。				
運用経過および 今後の運用方針	資金の流出入にに合わせて、「日興・世界ソブリン・ファンドVA（適格機関投資家転売制限付）」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興・世界ソブリン・ファンドVA（適格機関投資家転売制限付）」への高位の投資比率を維持します。				

《グローバルリートファンド》

運用実績 (2025年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) ^(注1)	3.44	3.22	75.69	225.95
	(注) 運用開始日は2004年7月12日。				
運用方針	世界各国の上場不動産投信（REIT = Real Estate Investment Trust）を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に高い投資成果をあげることを目標とします。				
運用経過および 今後の運用方針	資金の流出入にに合わせて、「日興グローバル REIT ファンド（6カ月決算型）」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興グローバル REIT ファンド（6カ月決算型）」への高位の投資比率を維持します。				

《マネーファンド》^(注3)

運用実績 (2025年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) ^(注1)	△0.14	△0.40	△0.92	△3.37
	(注) 運用開始日は2004年11月1日。				
運用方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。				
運用経過および 今後の運用方針	資金の流出入にに合わせて、「アクサ ローゼンバーク・日本円マネー・プール・ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「アクサ ローゼンバーク・日本円マネー・プール・ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉」への高位の投資比率を維持します。				

(注1) 騰落率は、当月末における、上記各期間のユニットプライスの変動率を表しています。

(注2) 特別勘定の運用関係費の引下げを図り、2025年5月中に投資信託を以下の通り変更いたします。特別勘定の運用方針の変更はありません。

特別勘定：日本株インデックス225ファンド

投資信託：「インデックスファンド225」から「インデックスファンド225VA（適格機関投資家向け）」へ変更

(注3) 「マネーファンド」は株価、債券価格、為替等の変動の影響を受ける可能性が低いことを想定した特別勘定です。

ただし、低金利環境下（マイナス金利を含む）では、「マネーファンド」の積立金の増加が期待できないだけでなく、諸費用の控除等により積立金が減少することもありますのでご注意ください。

※特別勘定「グローバルカレンシーファンド」は、2017年6月30日をもって廃止しました。

お問合せ窓口：カスタマーサービスセンター 0120-933-399

受付時間 月～金 9:00～18:00

土 9:00～17:00（日・祝日、12/31～1/3を除く）

新ユニット・リンク保険（有期型）「Life DO」「Life DO 80」

2024年度 特別勘定決算のお知らせ

1. 運用環境（2024年4月～2025年3月）

【日本株式市場】

年度末の TOPIX（東証株価指数）は前年度末比－3.97%の2,658.73ポイント（前年度末2,768.62ポイント）となりました。米国株式市場が上昇した影響等から7月に TOPIX は史上最高値を更新しましたが、日銀の利上げや半導体を巡る米中対立激化への懸念による半導体関連銘柄の急落、米国の景気減速懸念等により急速に下落する局面がありました。急落後の自律反発や日銀の追加利上げへのスタンスが確認され持ち直したものの年度末にかけてトランプ関税による景気悪化懸念が要因となり、下落して年度末を迎えました。

【外国株式市場】

米国株式市場では、年度末の NY ダウ工業株30種は前年度末比 +5.51%の42,001.76ドル（前年度末39,807.37ドル）となりました。米国のインフレが落ち着きを見せているという観測や、FRB（連邦準備制度理事会）が9月に4年半ぶりの利下げを実施したこと、また、トランプ大統領の新しい経済政策に対する期待等を背景に、米国の株式市場は上昇し、NY ダウは史上最高値を更新しました。2025年に入ってから、トランプ大統領の関税政策に対する不透明感や、米国経済にスタグフレーションの可能性が示唆されたこと等から上昇幅が縮小しましたが、前年度末比では上昇しました。
欧州株式市場では、前年度末比で独 DAX 指数は +19.85%、仏 CAC 指数は－5.06%となりました。米国の景気悪化懸念等から下落して推移したものの、ドイツの株式市場は財政拡張政策への転換による、防衛費やインフラ投資の拡大期待等から上昇しました。一方でフランスの株式市場は欧州自体の景気の低迷やトランプ関税に対する懸念等を要因として下落しました。

【日本債券市場】

10年国債の金利は上昇（価格は下落）し、年度末には1.490%（前年度末0.727%）となりました。年度を通じて2度の政策金利の引き上げの実施により政策金利を16年ぶりの0.5%としたことや、その後も追加利上げ観測が強まったこと等が金利上昇の要因となりました。

【外国債券市場】

米国債券市場では、10年国債の金利は上昇（価格は下落）し、年度末には4.205%（前年度末4.200%）となりました。9月にはFRBにより0.5%の大幅利下げが実施される等、米国の長期金利は低下しましたが、その後利下げベースは緩やかになるとの観測から上昇に転じ、トランプ政権の新経済政策が財政赤字の拡大や物価上昇をもたらすとの見方等から、米国10年国債の金利は、1月に一時5.0%に迫る水準まで上昇しました。その後、インフレ関連の経済指標が落ち着いてきたこと等から上昇幅は縮小しました。
欧州債券市場では、独10年国債の金利は上昇（価格は下落）し、年度末には2.738%（前年度末2.298%）となりました。ECB（欧州中央銀行）による利下げが複数回実施されたこと等は金利の低下圧力となりましたが、米国債金利の上昇の影響を受けたことや、年度末にかけてドイツが防衛費やインフラ投資の拡大に向けた財政拡張政策への転換を行ったこと等を受けて、金利は上昇して引けました。

【外国為替市場】

米ドル / 円相場は、年度末には前年度末比－1.89円の149.52円（前年度末151.41円）となりました。6月には、FRBによる利下げ回数の見通しが大きく減少したことや日銀が国債の買い入れの減額を先送りしたこと等を受けて、急激に米ドル高円安となる局面もありました。その後は、日銀による利上げが実施されたことで日米金利差が縮小するとの見方や、トランプ政権が貿易収支の改善のために円高圧力をかけるとの見方が台頭したこと等から、米ドル安円高の展開となりました。
ユーロ / 円相場は、年度末には前年度末比－1.16円の162.08円（前年度末163.24円）となりました。6月の政策理事会以降、ECBによる複数回の利下げが実施された一方、日銀による利上げが実施されたこと等から、日欧金利差が縮小するとの見方等により、ユーロ安円高の展開となりました。

2. 特別勘定資産の内訳 (2024年度末)

(単位：百万円、%)

区 分	日本株投資力学 ファンド		日本株ジバング ファンド		日本株エボリユー ションファンド		日本株インデックス 225ファンド		日本株インデックス TOPIX ファンド	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
現預金・その他	33	4.7	39	4.7	46	4.4	132	4.4	34	4.8
株 式	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
公 社 債	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
外 国 株 式	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
外 国 公 社 債	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
そ の 他 の 証 券	677	95.3	804	95.3	1,006	95.6	2,899	95.6	681	95.2
貸 付 金	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
合 計	711	100.0	844	100.0	1,052	100.0	3,031	100.0	715	100.0

区 分	グローバル グロースファンド		グローバルソリン 債券ファンド		グローバルリート ファンド		マネーファンド	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
現預金・その他	43	4.8	10	4.5	22	4.5	12	7.3
株 式	－	－	－	－	－	－	－	－
公 社 債	－	－	－	－	－	－	－	－
外 国 株 式	－	－	－	－	－	－	－	－
外 国 公 社 債	－	－	－	－	－	－	－	－
そ の 他 の 証 券	855	95.2	216	95.5	471	95.5	164	92.7
貸 付 金	－	－	－	－	－	－	－	－
合 計	898	100.0	226	100.0	493	100.0	177	100.0

(注) 金額は百万円未満を切り捨て。構成比は小数点第2位を四捨五入。

3. 特別勘定の運用収支状況 (2024年度末)

(単位：百万円)

区 分	日本株投資力学 ファンド	日本株ジバング ファンド	日本株エボリユー ションファンド	日本株インデックス 225ファンド	日本株インデックス TOPIXファンド
	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
利息配当金等収入	－	－	－	39	13
有価証券売却益	0	0	－	－	0
有価証券償還益	－	－	－	－	－
有価証券評価益	0	－	－	－	－
為 替 差 益	－	－	－	－	－
そ の 他 の 収 益	－	－	－	－	－
有価証券売却損	2	3	5	19	2
有価証券償還損	－	－	－	－	－
有価証券評価損	－	45	39	377	27
為 替 差 損	－	－	－	－	－
そ の 他 の 費 用	－	－	－	－	－
収 支 差 額	△1	△48	△45	△356	△15

区 分	グローバル グロースファンド	グローバルソリン 債券ファンド	グローバルリート ファンド	マネーファンド
	金 額	金 額	金 額	金 額
利息配当金等収入	－	－	14	－
有価証券売却益	15	0	1	0
有価証券償還益	－	－	－	－
有価証券評価益	19	－	3	0
為 替 差 益	－	－	－	－
そ の 他 の 収 益	－	－	－	－
有価証券売却損	0	0	0	0
有価証券償還損	－	－	－	－
有価証券評価損	－	2	－	－
為 替 差 損	－	－	－	－
そ の 他 の 費 用	－	－	－	－
収 支 差 額	35	△2	19	0

(注) 金額は百万円未満を切り捨て。

4. 保有契約高 (2024年度末 /9勘定合計)

(単位：件、百万円)

項 目	件 数	金 額
新ユニット・リンク保険（有期型）	1,363	10,553
合 計	1,363	10,553

(注) 金額は百万円未満を切り捨て。

5. 特別勘定の運用状況

《日本株投資力学ファンド》

運用実績 (2025年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) ^(注1)	△0.23	47.07	118.56	210.94
(注) 運用開始日は2002年11月1日。					
運用方針	日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をトップダウンで選択する投資信託に主に投資することによって、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることが目標とします。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興アクティブ・ダイナミクス（投資力学）」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興アクティブ・ダイナミクス（投資力学）」への高位の投資比率を維持します。				

《日本株ジバングファンド》

運用実績 (2025年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) ^(注1)	△5.07	31.50	93.85	343.39
(注) 運用開始日は2002年11月1日。					
運用方針	日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をボトムアップで選択する投資信託に主に投資することによって、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることが目標とします。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興ジャパンオープン（ジバング）」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興ジャパンオープン（ジバング）」への高位の投資比率を維持します。				

《日本株エボリューションファンド》

運用実績 (2025年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) ^(注1)	△3.89	22.41	86.50	124.30
(注) 運用開始日は2002年11月1日。					
運用方針	全世界の経済動向および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる国内株式を主な投資対象 ^(※) とする投資信託に主に投資することによって、中長期的な投資成果を積極的にあげることが目標とします。 (※) 国内株式を主要投資対象としますが、有望な投資対象が国内にない場合は、30%を上限にして海外株式に投資することがあります。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興エボリューション」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興エボリューション」への高位の投資比率を維持します。				

《日本株インデックス225ファンド》^(注2)

運用実績 (2025年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) ^(注1)	△10.32	31.26	93.76	378.73
(注) 運用開始日は2002年11月1日。					
運用方針	国内上場株式に投資することにより、日経平均株価指数に連動した投資成果をあげることが目標とします。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「インデックスファンド225」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「インデックスファンド225」への高位の投資比率を維持します。				